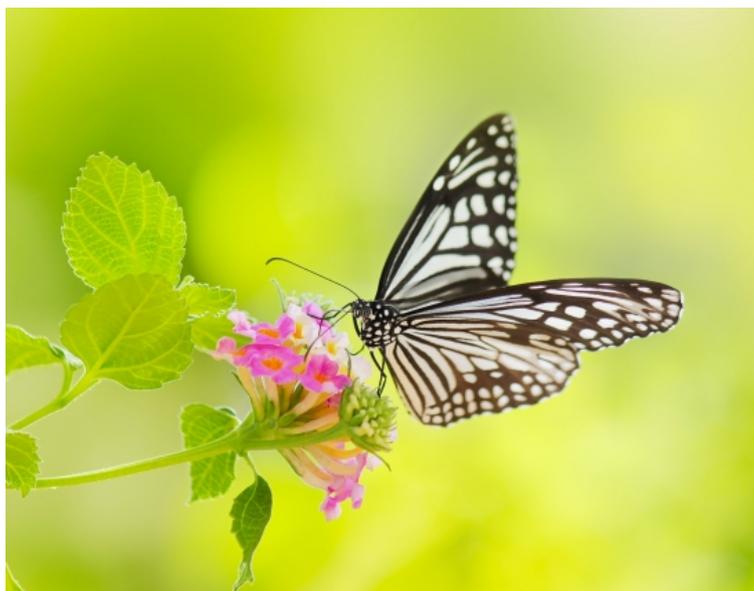


Vol.121
院長 関の
Face to Face

2018年 7月 1日発行

皮膚がカサカサになる：
更年期障害と、気持ちが悪
さぎやすい：
更年期障害
やうつ病と、基礎体温が低い：
冷え性や低血圧と、声がか
すれる：
気管支炎と、口が
うまくまわらない：
認知
症と、記憶力が低下する：
認知症と、手足のシビレ：
末梢神経炎と、むくみ(浮腫)：
腎臓病と、尿からタンパク
が出る：
腎臓病と。更には
不妊や子供の成長不良など。

紛らわしい甲状腺症状



これらは医師でも見逃しや
すい甲状腺の機能異常でも
現れる症状です。残念なが
ら甲状腺を理解している医
師が少ないのが現実です。
2018年7月24日の毎日
新聞朝刊1面には、認知症、
甲状腺検査を」というタイ
トルで甲状腺機能検査を受
けないまま認知症と診断さ
れ、不適切な薬の服用で症
状の改善どころか副作用に

よる不利益を与えている恐
れがあると結んであります。
甲状腺機能検査とは具体的
に、問診、触診、血液検査に
よるホルモンや抗体の数値
を見る、エコーやシンチグ
ラムなどの画像診断、必要
であれば組織検査...という
順番で行われます。正常な
甲状腺は縦横4cm、重さ20
g、厚さ数mm、蝶が羽根を広
げたような形をしています。
全身の細胞での新陳代謝を
促すホルモンを作る+分泌
する+貯蔵する、人体の中
で最も大きな『内分泌気管』
なのです。

関 修一(せきしゅういち)
健育会 東銀座整骨院・整体院・
鍼灸院 院長
代替医療の総合治療院としての
確立を目指す。タイトルの face
to faceは、患者さん自身と向き
合って患者さんの症状と闘うこ
とを願ってつけた
毎月一日の発行です